



輝く
恵那人

241人目



長島町正家

鈴木 正人さん (55歳)

□プロフィール

長島町在住。岩村醸造株式会で酒作りの責任者と言われる杜氏を務める。趣味は家庭菜園で、ナスやトマト、キュウリなどの夏野菜を育てている。他にも米作りや鮎漁を行うなど、幅広く活動している。



▲「糴入れ」という発酵を促す作業をする鈴木さん

岩村醸造株式会社(岩村町)で、約14年「杜氏」を務める鈴木正人さん。杜氏とは、酒蔵で働く職人(蔵人)であり、酒作りの責任者と言われる重要な役割。鈴木さんは蔵人らを取りまとめ、会社の要望を聞きながら酒を作っている。鈴木さんは高等学校を卒業後、市外の電気系の会社などに就職。その頃偶然目にした冊子を読んで、初めて酒を作る蔵人という職業を知った。もともと酒が好きだった鈴木さんは、契約満了を目前としていたこともあり、蔵人をやってみようと決意。26歳の頃、武並町にあった、いとう鶴酒造株式会社に就職し、蔵人としてのキャリアをスタートさせた。

初めは、時間までに作業が終わらなかったり、言われた通りにできなかつたりして厳しく指導されることもあった。しかし「酒作りが好き」という気持ちが強くなり、厳しい指導も苦にならず着実に技術を身に付けていった。

30代になると、技術を磨くために宮城県の酒蔵で働くようになった。その傍ら、一般社団法人南部杜氏協会が認定する杜氏資格を取得しようとして、酒税法や醸造学の勉強や利き酒などの鍛錬を重ね、37歳の頃、見事杜氏資格を取得した。41歳の頃には、現在勤めている岩村醸造株式会社が杜氏を探しているという連絡を受け、恵那に戻り杜氏として働くことを決めた。「この頃の成長度合いの確認やよろみの分析などを行い、求める味にどれだけ近づけられるかが腕の見せどころ」と話す鈴木さん。毎年10月末から3月まで住み込みで働き、これまでの経験を生かしながら酒作りに向き合っている。

「お客様に喜んでもらうのが一番のやりがい。多くの人に日本酒のおいしさを知ってもらいたい。今後は酒作りの技術を後世に伝えられるよう指導も行っていく」と話す鈴木さんの表情は酒作りへの愛情にあふれている。

おいしいお酒を届けたい
杜氏としての経験を生かして



その他の話題もウェブサイトに掲載

News & Topics まちのわだい

12/28

映画「52ヘルツのクジラたち」上映会・トークショー



恵那文化センターで、㈱ホリプロとの包括連携に基づき、「52ヘルツのクジラたち」の上映会とトークショーが行われました。当日は成島出監督と、アクティングコーチの秦秀明氏、恵那観光大使の鈴木基之氏が登壇。来場した約600人は演技の世界への理解を深めました。

12/25

明知城跡で初の発掘調査
地層や出土品を調べる



本年度の明知城跡の発掘調査が終わり、関ヶ原の合戦後に本丸が大改修され、遠山氏が居住していたことなどが分かりました。市では本年度から4年計画で調査事業を行い、国史跡指定を目指し、今後さらに本丸や出丸の役割なども調べていく予定です。

1/12

金メダリスト小平奈緒さんのスケート教室



本年度も小平奈緒さん(相澤病院)を招いたスケート教室が開催されました。参加した小中学生81人は、小平さんから滑り方のコツを習い一緒にスケートを楽しみました。渡辺陽太さん(八百津町)は「話をしながら一緒に滑れて楽しかった」と笑顔で話しました。

1/5

新春恒例 消防出初式



令和7年消防出初式が開催されました。消防功労者への表彰伝達などの後、恵那駅前中央通りでは総勢500人による分列行進や伝統のトビはしご登りが行われ、観客の歓声が青空に響きました。阿木川では一斉放水が行われ、観客は恒例行事を楽しみました。

1/24

卓越した技能者の岐阜県知事表彰の受賞報告



金寿司(長島町)の林満さんと、東海理化NEXT(株)(武並町)の長江敏充さんが、「卓越した技能者の岐阜県知事表彰」を受賞しました。林さんは後継者育成の活動などが評価され、長江さんはプラスチック成形の生産性向上などが評価され受賞となりました。

1/17

おいしいイチゴを召し上がれ
出荷がスタート



市いちご生産者組合の石川右木子さん(上矢作町)、原聡志さん(岩村町)、阿部真奈美さん(三郷町)が、イチゴの出荷開始を報告しました。同組合では主に「章姫」と「紅ほっぺ」を栽培しており毎年約50トンを出荷。イチゴは道の駅やえなてらすなどで販売しています。